

## 【基本目標2】 支え合いの輪を広げよう

「地域共生のまちづくり」を推進するためには、地域で活動しているNPOやボランティア団体などの活動が活性化するとともに、相互の連携を図ることが必要です。もちろん、こうした団体の活動状況は地域によって違いがありますが、身近な地域における話し合いなどを通じてお互いが連携し、活動の輪を広げることによって、地域の様々な生活課題や必要な支援が共有され、地域自らの課題解決力が高まります。

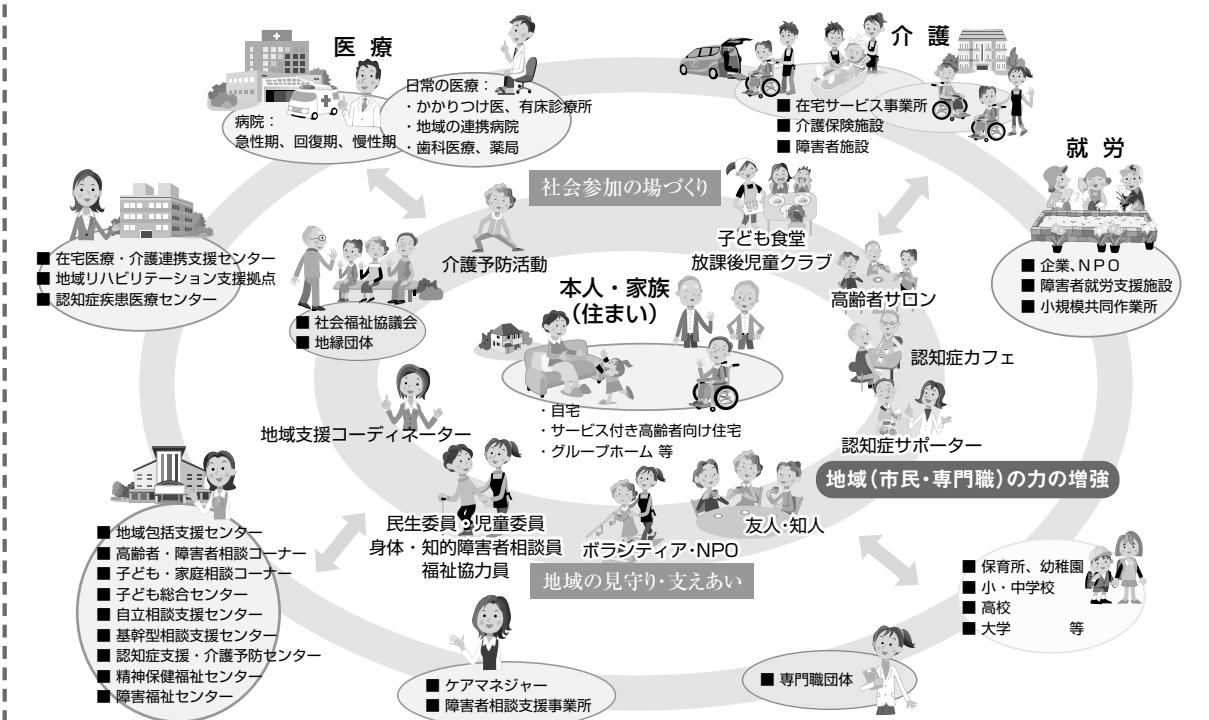
そこで、地域で次の5つのことを目指していきます。

- 日常的に地域の人が交流できる場所や機会をつくる
- 支援を必要とする人が近所にいれば、見守りや助け合いを実践する
- 地域での活動に参加する
- 地域活動団体、支援機関等の中で情報共有をはじめとする連携を深める
- 災害に備えて、平常時から支え合いのネットワークづくりに取り組む

### 地域共生社会の実現に向けた重層的な支援の輪

【本人・家族を中心とした重層的な支援の輪】

- 地域の中での見守り・支えあいのつながりや社会参加、居場所（地域の輪）
- 地域への働きかけができる専門職人材の育成や関係者間のネットワーク（専門職の輪）



【浜村明徳氏（小倉リハビリテーション病院名誉会長）の協力のもとに作成】

## 日常的に地域の人と交流できる場所や機会をつくる

昔ながらの地域のきずなが希薄になるにつれ、地域とつながらないことに気楽さを感じ、関心を持たない人が多くなっている傾向にあります。「地域共生のまちづくり」の実現のためには、地域ぐるみで支え合うことのできるネットワークの充実・強化が重要です。

高齢者、障害のある人、子ども、保護者、学生、外国人、ボランティアなど年齢や属性に関わらず、日常的に地域の人々がふれあう機会や居場所をつくることで、地域のきずなを強めましょう。

### 【実現に向けた取組み】

#### ◆地域コミュニティ拠点の提供・支援

地域の人々が、集会・会議など地域活動で利用する施設や交流の場（以下「地域コミュニティ拠点」という。）には、市民センター、年長者いこいの家、つどいの家、公民館類似施設、高齢者サロン、認知症カフェ、子ども食堂などがあります。

市民センターをはじめとする既存施設のさらなる活用を目指すとともに、認知症カフェや高齢者サロン、子ども食堂など、地域の人々が集まる居場所づくりを、開設や運営の相談、PRなどの面で支援します。

老朽化等で既存の施設が存続できない場合などは、拠点となる別の施設を確保していく必要があります。市民センターを中心に、地域にある公民館類似施設、つどいの家、さらに企業や介護施設等が提供する地域の人々のための利用スペース等の活用など、地域の社会資源を最大限に活用し、地域の実情に応じた工夫をしていくことが重要です。

### 【主な取組み】

#### ●（仮称）地域交流・居場所部会（いのちをつなぐネットワーク推進会議）

地域の人々が気軽に参加できる地域交流の場や居場所の充実を図るため、いのちをつなぐネットワーク推進会議に、カフェやサロンの運営者や施設関係者が交流する「（仮称）地域交流・居場所部会」を設置し、地域の交流・居場所づくりを支援します。

#### ●子ども食堂開設支援事業

地域のニーズに沿った持続可能な子ども食堂の取組みを支援するため、子ども食堂ネットワーク北九州を中心に、開設や運営のサポートを地域・企業・各団体・学校・行政等の連携を深めながら実施していきます。

#### ●北九州ひとみらいプレイスの充実

北九州ひとみらいプレイスは、コムシティ（八幡西区）にある11の施設が連携した複合施設です。各施設の特長や専門性を生かし、子どもから高齢者まで、年齢、国籍、文化、障害の有無を問わず、若者成長の支援、あらゆる世代の学びの充実、さまざまな団体の活動支援、すべての市民の交流促進に取り組み、幅広い人づくりを支援します。